

ひょうご発達障害者支援センタークローバー 和田センター長が思う 「雇用して頂ける企業の方に向けて」

3回にわたり発達障害のある人の就労について書かせていただきましたが、今回が最終回になります。最終回は、雇用して頂ける企業の方に向けて書かせていただければと思います。

働くことでの成長は大きい

相談者のお話です。決まった時間に起きることもままならない状態で、就労移行支援事業所での訓練をはじめ、訓練を通して時間通りの通所や、プログラムへの参加も出来るようになったのですが、少ししんどいことを理由に休むことが時々見られました。利用期限の2年を迎えようとしている中、事務のお仕事の求人に応募し採用になった方がおられます。支援者は大変不安があり勤まるのだろうかとの思いがあり、定期的な相談を続けました。

当初は、自分の考えを話すことや、説明をすることが苦手でしたが、仕事を続けていく中で、そうしたことが出来ていくようになりました。会社の方にお聞きすると、「最近、自信がついてきたみたいに感じます。戦力ですよ。」とのお話でした。訓練機関で様々なプログラムを行いながらでも身に付きにくかったことが、就労というより良い緊張感の中で、日々の業務に遂行する中で身についたようです。この方の姿を見て「働くことによる成長はすごい」と感じました。



マッチングで力が発揮できる

これまでに書かせていただきましたように、得意、不得意の差が大きいというのが発達障害のある人の特徴です。できるだけ得意な部分を生かす業務に就くことができれば、より、持っている力を発揮できる場所があります。指示の出し方の工夫で、分かりづらかったところが分かり業務遂行がスムーズになることもあります。障害のある人の雇用促進が謳われています。是非、発達障害のある人の雇用を検討いただくと有難いです。



発達障害ある人に分かりやすい職場は誰にでもわかりやすい職場である

前号までに書きました発達障害のある人への対応について見ていただけるとお気づきだと思いますが、発達障害のある人にとって分かりやすいだけでなく、どの人にとっても分かりやすいものです。仕事の指示や職場環境を少し変えてもらえると、職場の方皆さんが働きやすくなることもあるかもしれません。



就労支援機関と一緒に雇用、支援を



昨今、発達障害のある人は障害者の就労支援機関に通う人が増えています。その中でも、職業準備性を高めるために就労移行

支援事業所に通う人が多くなりました。雇用される企業だけで発達障害のある人の支援を行っていくのではなく、就労支援機関と連携しながら雇用、定着を進めていただきたいと思います。雇用を行う中で困ることも出てくる場合があります。就労支援機関と連携していただけると困ることも相談しながら解決していけることがあります。

最後に

私のもとに来てくれている相談者から、先日こうした話がありました。この人は、以前障害非開示で就職していましたがうまくいかず、その後、就労移行支援事業所の訓練を経て就職した人です。

「働くことはいいですね。仕事があることはいいですね。自分のする仕事があるとホッとします。必要とされている証拠ですね。仕事があることは。もう、仕事のないのは嫌ですね。そのためには、一生懸命に頑張ります。」

仕事の在り方が変わろうとしているこのコロナ禍の中で、仕事の意味を再考する言葉になりました。

最後まで乱文にお付き合いいただきありがとうございました。見ていただきました皆様の会社で、発達障害のある人の雇用を進めていただけることを願っております。



ひょうご発達障害者支援センタークローバー

センター長 和田 康 宏

(経歴)

平成8年	日本福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科 卒業
平成8年～平成10年	奈良県、神戸市で講師として、地域の中学校障害児学級、養護学校で勤務
平成10年9月～平成13年9月	社会福祉法人あかりの家 生活指導員
平成13年10月～平成15年12月	障害児(者)地域療育等支援事業 コーディネーター
平成15年12月～平成17年5月	ひょうご自閉症・発達障害支援センター クローバー 主任相談支援員
平成17年6月～平成21年3月	ひょうご発達障害者支援センター クローバー 主任相談支援員 (名称変更に伴う)
平成21年4月～現在	ひょうご発達障害者支援センター クローバー センター長

(委嘱：就労関係)：兵庫労働局 発達障害専門指導監
：高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者雇用管理サポーター

